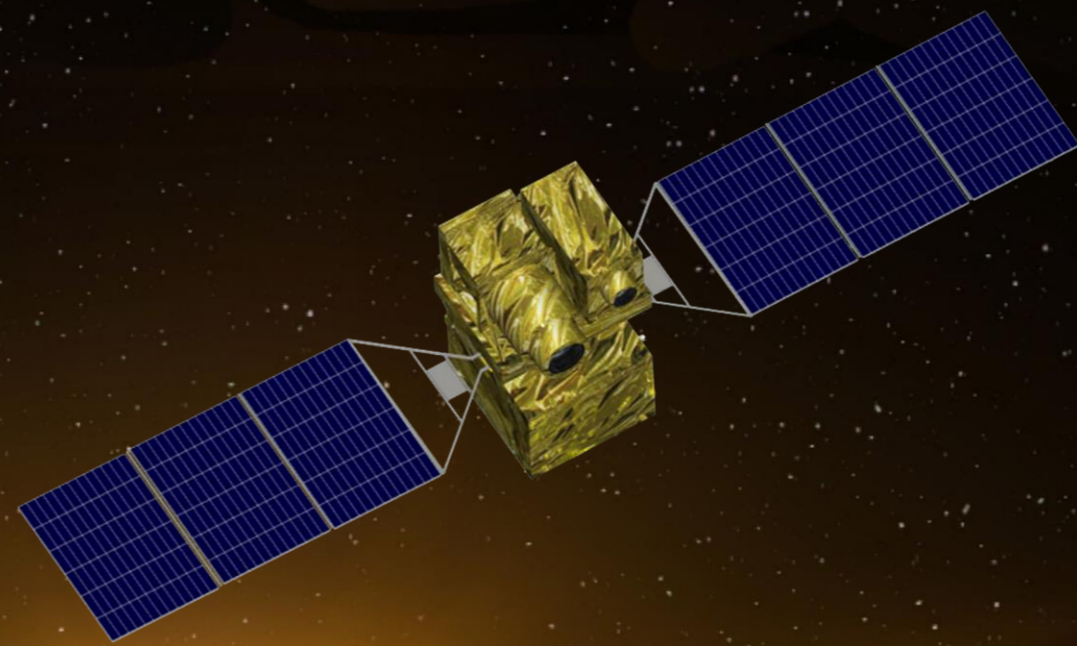


内閣官房 内閣情報調査室

内閣衛星情報センター



内閣官房 内閣情報調査室 内閣衛星情報センター

CABINET SATELLITE INTELLIGENCE CENTER

〒162-0845

東京都新宿区市谷本村町9-13

☎03-3267-9564 (採用専用)

🌐<http://www.cas.go.jp/jp/gaiyou/jimu/csice.html>

JR総武線・東京メトロ有楽町線・南北線
「市ヶ谷」駅徒歩10分



採用案内

2019-2020

内閣衛星情報センター

Cabinet Satellite Intelligence Center

内閣衛星情報センターを 志望する皆さんへ

我が国における情報収集衛星の導入の閣議決定を受けて、平成13年に内閣衛星情報センターが設立されてから18年が経ちました。設立以来、当センターは政府の“目”として、国内外問わず幅広く安全保障及び危機管理に関する正確な情報を収集し、政府の重要政策の意思決定に貢献してきました。

その間も我が国を取り巻く安全保障環境は一段と厳しさを増しており、また甚大な被害をもたらす自然災害によって私達の日常は脅かされ続けていますが、このような脅威と向き合うには、まずは情報の力が必要不可欠となります。

当センターは、更なる情報収集体制の強化に向け、新規衛星の開発・分析能力の向上に日々邁進しています。体制の強化には、人材の増強が不可欠な要素であり、皆さんの気概に富み意欲ある新たな力を欲しています。

当センターの一員として宇宙を仕事場に共に働ける日を心待ちにしています。

内閣衛星情報センター所長
宮川 正

目次	P.
内閣衛星情報センターを志望する皆さんへ	01
内閣衛星情報センターについて	02
組織について	03
各部紹介	04
情報収集業務の流れ	05
情報収集衛星について	06
加工処理画像の公開実績	08
私たちが内閣衛星情報センターを志望した理由	09
若手職員座談会	10
先輩からのメッセージ	12
育児中の女性職員から	14
職員の日	15
採用に関するQ & A	16
キャリアステップ・待遇等	17



内閣衛星情報センターについて



↑内閣衛星情報センターのロゴマーク。技術部の職員がデザインしました。

内閣衛星情報センターは、平成10年の北朝鮮によるミサイル発射を契機に、平成13年に設立されました。外交・防衛等の安全保障及び大規模災害等への対応等の危機管理のために必要な情報を収集することを目的として、情報収集衛星の開発・運用を行っています。

地球上の特定地点を1日1回以上撮像するため、現在、光学衛星2機とレーダ衛星2機の4機体制を確立しています。今後もさらに情報収集能力を強化していくため、機数の増加と性能向上を目指して衛星の開発に取り組んでいます。

情報収集衛星の必要性

我が国を取り巻く国際情勢は依然として厳しく、外交・防衛等の安全保障や、大規模災害等への対応等の危機管理のための情報収集を怠れない状況にあり、国と国民の安全を確保するため、政府として適切な情報収集に努める必要があります。

内閣衛星情報センターでは、政府の関心事項の情報収集に役立てるべく、情報収集衛星により入手した画像を政府機関に提供するとともに、自ら分析を行っています。衛星画像から得られる情報は質・量ともに高く、政治的・地理的制約にとらわれない手段として各機関で積極的に活用されています。

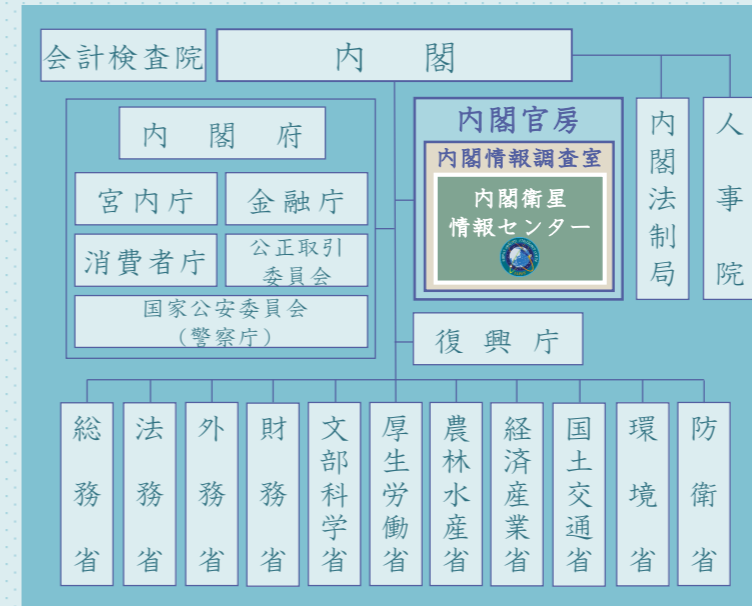
このようにして内閣衛星情報センターは、政府の情勢判断や政策の決定に貢献しています。

情報収集衛星の導入について

平成10年12月22日
閣議決定

政府は、外交・防衛等の安全保障及び大規模災害等への対応等の危機管理のために必要な情報の収集を主な目的として、平成14年度を目途に情報収集衛星を導入することとする。

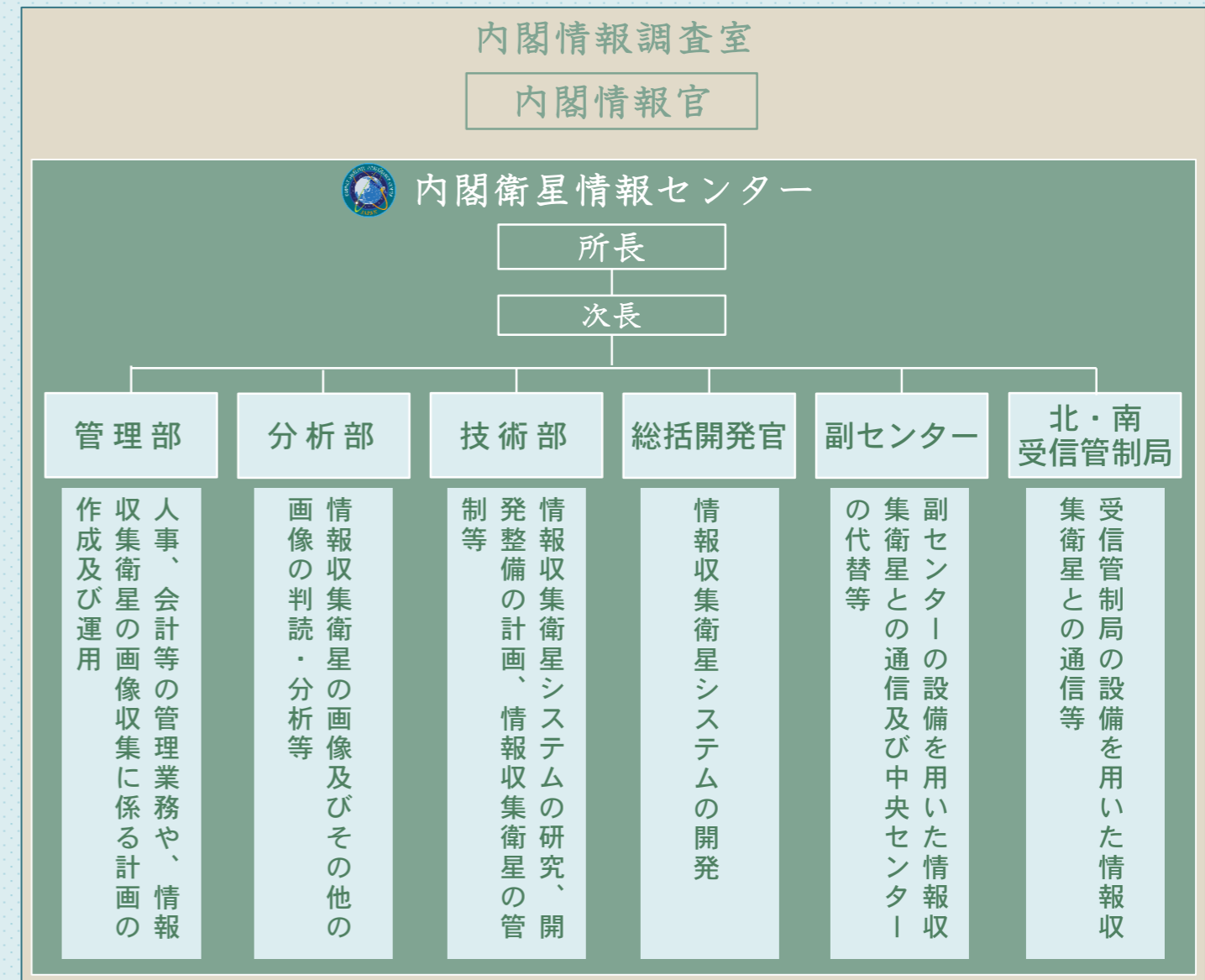
同衛星の開発及び運用・利用については、準備体制を含め相当の組織体制と経費を必要とするので、中央省庁等改革との整合性を図りつつ行政の簡素・効率化及び内閣の情報収集機能強化の観点から同衛星の運用等に係る組織体制の整備を行うなど、関係機関の緊密な連携、協力の下、政府が一体となって適切に対応することとする。



↑内閣衛星情報センターの位置づけ



↑内閣衛星情報センター施設の所在地。北海道と鹿児島に受信管制局がある。



↑内閣衛星情報センターの組織図。管理部、分析部、技術部、総括開発官は中央センター勤務となる。

管理部

全体を俯瞰する

衛星情報センター全体の業務が円滑に行われるよう内外の関係機関と連絡調整を行っていくことが主な業務となります。

たとえば、情報収集衛星の運用や開発についての政策や計画を他の政府機関と相談しながら立案したり、国会審議の対応や国会議員への説明を行ったり、情報収集衛星が果たしている役割への一般の方への理解を深める取り組みを進めたりしています。

また、内外のニーズを踏まえて、情報収集衛星の性能を最大限活用し、どの地点を、どのように撮像するか計画（撮像計画）を日々作成しています。

分析部

InformationからIntelligenceへ

情報収集衛星により入手した画像の判読・分析と報告書の作成が主な業務となります。安全保障関連や大規模災害等の危機管理事案が発生した際は、いち早く情報収集・判読分析を行い、関係機関に提供しています。

また、普段から衛星画像や公開情報を収集し、各地の情勢を観察し、緊急事態が発生しても速やかに情報の収集・分析にとりかかれる態勢を整えています。

このほか、分析官の能力を高めるための判読分析に関する教育や、判読分析を円滑・効果的に行うための調査研究も行っています。

技術部

宇宙へ送る、宇宙から受け取る

衛星開発、衛星打上げ、衛星と地上施設の管制・管理が主な業務となります。情報収集衛星の開発は、運用上の問題点や要望、最新の技術動向を踏まえた衛星の仕様と設計を検討し、その結果をもとに製造企業と相談しながら推進しています。

開発した衛星は、関係機関や企業と協力して打ち上げます。打ち上げた衛星は、副センター・受信管制局を経由して、機能が問題なく発揮されているかを常にチェックし、軌道修正を行っています。また、打ち上げ後も性能の維持向上の取り組みを続けています。

情報収集業務の流れ

(TCPEDサイクル)

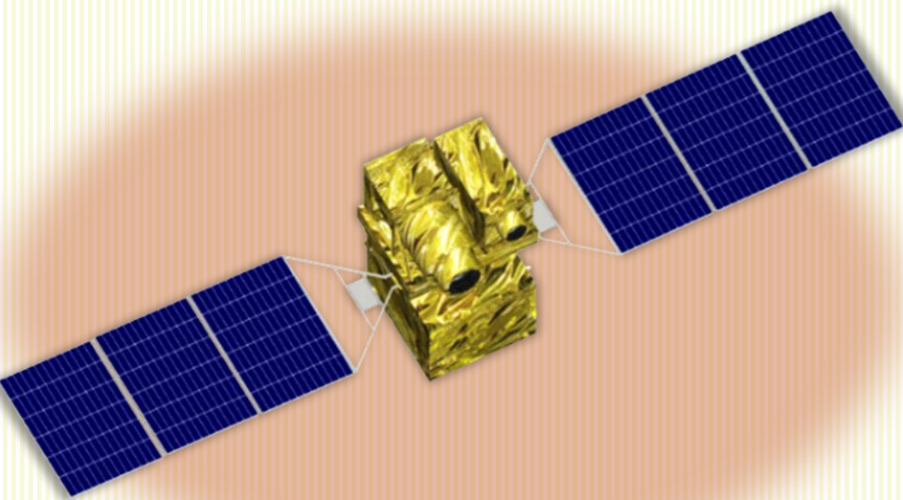


ティーシーペッド TCPEDとは…

- T**asking 【タスキング】 利用省庁等からの情報要求の受付を行う。
- C**ollection 【計画】 各衛星の運用計画、ダウンリンク計画を作成。
- P**rocessing 【画像処理】 ミッションデータの画像化を行う。
- E**xploitation 【判読・分析】 画像を判読・分析する。
- D**issemination 【プロダクト作成・配付】 利用省庁等へ提供する。

情報収集衛星について

内閣衛星情報センターでは、光学衛星とレーダ衛星という2種類の衛星を使用して画像の収集・分析をしています。それぞれに特徴があり、両者を組み合わせることにより、より多くの情報を集めることができます。

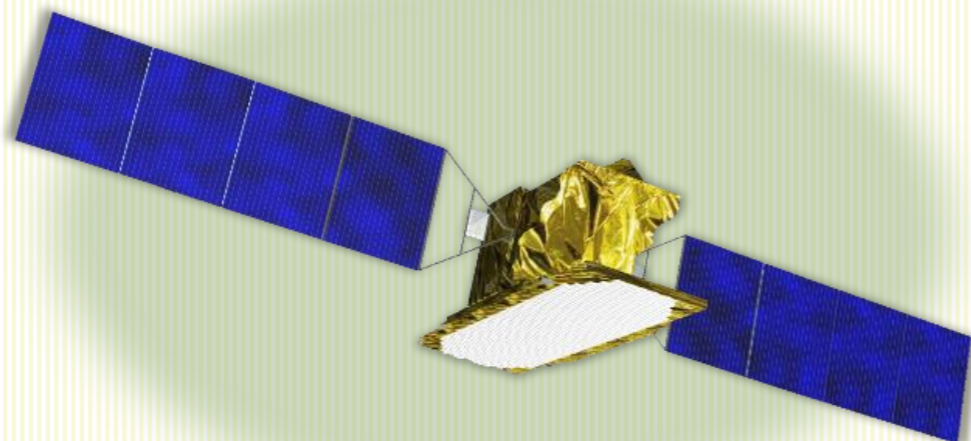


光学衛星

デジタルカメラ写真のような画像を撮影します。
人間の目に映るものと同じ画像なので見やすいですが、雲に覆われていたり、太陽の光が当たっていない時間帯の撮像には向いていません。

レーダ衛星

地球の表面に自ら電波を照射し、その反射波を検出して、画像に加工します。
レーダ画像を判読するためには、電波の反射を読み解く技術が必要ですが、雲に覆われている地域や夜間でも撮像できるという大きなメリットがあります。



情報収集衛星の打上げ実績（平成31年4月現在より過去約5年間）

平成30年6月12日	H-IIA 39号機	レーダ衛星6号機
平成30年2月27日	H-IIA 38号機	光学衛星6号機
平成29年3月17日	H-IIA 33号機	レーダ衛星5号機
平成27年3月26日	H-IIA 28号機	光学衛星5号機
平成27年2月 1日	H-IIA 27号機	レーダ衛星予備機



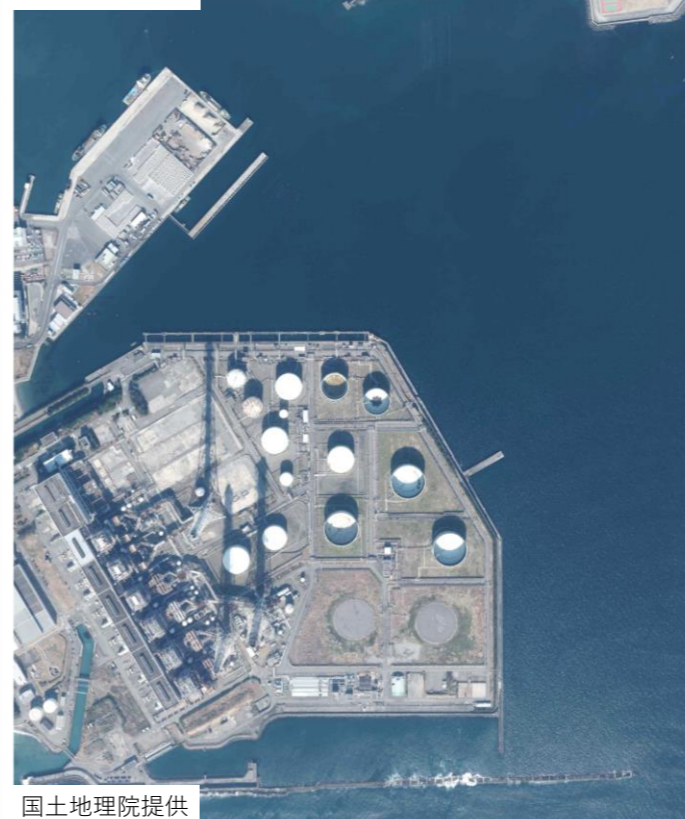
©三菱重工/JAXA

光学画像とレーダ画像の比較

下の2枚の画像は、どちらも神奈川県の久里浜港を写した光学画像とレーダ画像です。
建物等の人工物で反射した電磁波はとらえやすいので、レーダ画像では白く（明るく）なります。反対に海面で反射した電磁波はとらえにくく、黒く（暗く）なります。

このようにレーダ画像を判読する際には、電磁波が物に当たったときに返ってくる反射の特徴をあらかじめ知っておく必要があります。

光学画像
(航空写真)



国土地理院提供

レーダ画像
(民間の衛星)



(C)2019 DLR, Distribution Airbus DS/Infotera GmbH, Sub-Distribution [PASCO]

今後の方向性

《10機体制》の整備へ

これまでの目標：4機体制

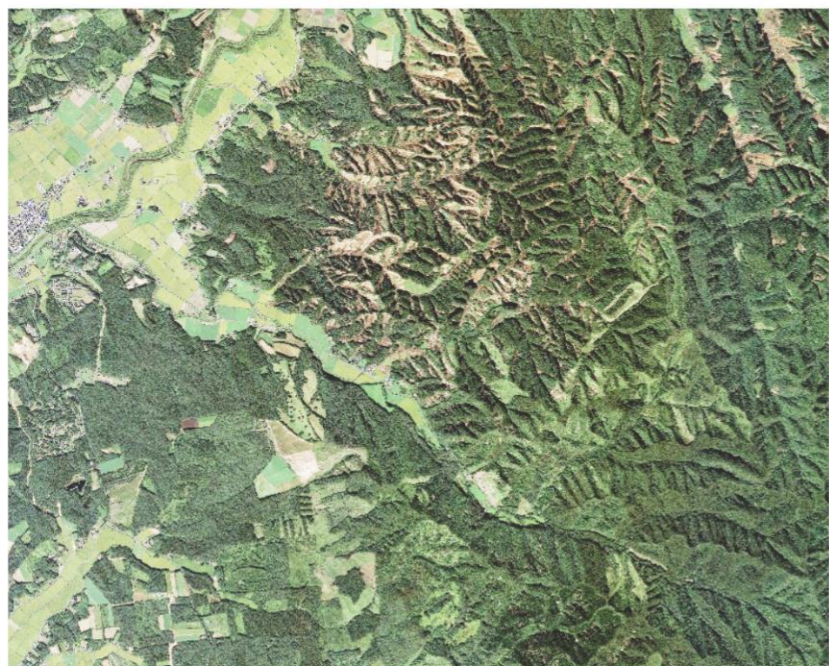
- ◆光学・レーダのそれぞれで関心対象を1日1回以上撮像することが可能。
- ◆衛星が日本上空を通過する時間帯のみ撮像データの伝送が可能。

今後の目標：10機体制 (8機+データ中継衛星2機)

- ◆光学・レーダのそれぞれで関心対象を1日2回以上撮像することが可能。
- ◆データ中継衛星の利用により、伝送時間を大幅に短縮し即時性が向上。

加工処理画像の公開実績

国内で大きな災害や事故が起こったとき、内閣衛星情報センターでは自治体や国民の皆様
に情報を提供するため、情報収集衛星の画像を加工して公開しています。公開を始めてから
平成30年までの間に、洪水や火山噴火、地震等の6件の災害で画像を公開しています。



北海道勇払郡厚真町吉野地区周辺
(平成30年北海道胆振東部地震による土砂崩れ)

この2枚を撮るための撮像計画は
私が立案しました!

体験談

災害時対応

～撮像計画業務経験を踏まえて～

採用後の研修を経て、撮像計画の
実業務に就いて間もなく、被災地域
の撮像計画の立案を任されました。

自分が撮像計画立案を行い取得し
た画像が内閣官房ホームページに公
開されているのを見て、**情報収集衛
星の運用に直に携わっているのだと
いう実感と大きな達成感**を味わいま
した。

[平成30年採用(行政区分)・女性]



岡山県倉敷市真備地区
(平成30年7月豪雨による浸水被害)

情報収集衛星の加工処理画像公開実績

公開日 (第一報)	発生事象
平成27年 9月11日	平成27年台風第18号による 大雨
平成29年 7月10日	福岡県・大分県等の大雨
平成30年 1月29日	草津白根山の火山活動
平成30年 3月14日	霧島山(新燃岳)の火山活動
平成30年 7月10日	平成30年7月豪雨(岡山 県、広島県、高知県)
平成30年 9月12日	平成30年北海道胆振東部 地震



新規採用
職員に聞く

私たちが 内閣衛星情報センターを 志望した理由

大学での専攻×国を守る仕事

行政区分 女性

私が当センターを志望した理由は、なにより
安全保障に関わることが出来る仕事だった
からです。昔から国を守ることのできる仕事
に憧れがありましたが、安全保障に関する省
庁自体も多くあり、それぞれに異なったアプ
ローチがあり、どこを第一志望とするか悩ん
でいました。

そこで決め手となったのは、大学で地理学
を専攻していたことです。専門的に政治や国
際関係を深く学んだわけではありませんでし
たが、空間を考えるとという点でつながりがあ
ると思いました。また、留学の経験があった
ので、海外出張の機会がある点も魅力でした。

情報を伝えることで国民を守る

物理区分 女性

私は大学では物理学、特に銀河の構造・進
化について学んでいました。そのため当初は
大学院進学を考えていましたが、大学3年の
春休みに母から国家公務員の受験を勧められ、
女性のための公務研究セミナーに参加しまし
た。

宇宙に興味があった私は、当センターの名
前に惹かれ、説明を聞きに行くことに決め、
実際に宇宙に関わる仕事をしていること、**女
性にとって優しい職場**であることを知りまし
た。さらに何度かの説明会や座談会への参加
を通して、働いている方々の温かい雰囲気や、
中央官庁ならではの緊張感も感じました。

近年、北朝鮮を始めとする外交・防衛問題
や大規模自然災害等、さまざまな危機的環
境に日本は置かれています。平成30年7月の

西日本豪雨では、地元の岡山が被害に遭い、
私自身が国民を守りたいと強く感じました。
当センターは直接何かを守る場所ではありま
せんが、危機対応に必要な情報をいち早く手
に入れ、他省庁へ正確に伝えることで、国民
を守ることができる場所です。

このようにして、人工衛星という専攻分野
に関わるフィールドで、優しくて素敵な先輩
方と、情報収集によって国や国民を守ること
のできる当センターを私は志望しました。

国の政策の意思決定に貢献

農学区分 女性

私が当センターを知ったきっかけは、偶然
目に入った内閣官房のツイッターでした。そ
の後、人事院主催の合同説明会に参加し、当
センターについての説明を受けました。

説明会やパンフレットを通して、情報収集
に関する業務の重要性を知るとともに、情報
収集衛星が安全保障上はもちろんのこと、災
害等による被災状況の把握等、幅広く活用さ
れており、大きな役割を果たしていることを
知りました。そのような中で情報収集衛星の
運用等に関わることは、国の政策の意思決定
に貢献できると魅力を感じ、当センターを志
望しました。

私は大学で食品科学を専攻し、国家公務員
試験を農学区分で受験していたため、情報収
集衛星に関する知識がないに等しい状態でし
ましたが、説明会では職員の方々が丁寧に分か
りやすく説明して下さいました。さらに、官庁
訪問前には個別の説明会を開催していただき、
実際に働いている数人の職員の方から話を聞
くことができたことも当センターへの就職を
決めた大きな理由の一つです。

若手職員座談会

内閣衛星情報センターで活躍している若手職員に、皆さんが気になるあんなことやこんなことを聞いてみました。

皆さんが衛星センターを志望した理由や、きっかけについてお聞かせください。

Dさん 自分自身が被災した経験から、大学で学んだ物理を生かして、**災害対策を行っている省庁**を探していました。その結果、衛星センターを見つけて、説明会に参加していく中で面白そうなところだと思い志望しました。

Aさん 私は「インテリジェンス」に関わる省庁に興味があり、その中でも**自前の情報収集衛星を開発・運用し、独自の情報ソースを扱って画像分析を行っている**衛星センターに興味を持ち志望しました。

入庁前のイメージと入庁後のギャップはありましたか？また、職場の雰囲気などについてもお聞かせください。

Bさん 情報機関ということで、閉鎖的で暗い雰囲気の中で黙々と仕事をするイメージを持っていましたが、入ってみると意外とオープンというか、明るい職場だと思いました。また、衛星センターは出向者が多いですが、**各省庁が持つ文化・伝統の良いところがうまく混ざり合っている**なと感じています。

Cさん 私も同じように、意外とオープンな職場というか、**和気あいあいとした雰囲気**だなと思いました。

Aさん 私は情報機関ということで、プライベートの制約が多いというイメージを持っていました。実際に、業務に関しては高い保全意識が求められますが、プライベートは自由度が高く、昨年は2週間ほど休暇をいただいて海外に新婚旅行にも行きました。

ワークライフバランスについても理解がある職場だと思います。

Dさん バックグラウンドの異なる方が多いので、様々な経験を聞くことができ**とても刺激的な毎日**です。周りの先輩方に気軽に質問できる雰囲気なので、入庁前に抱えていた不安も払拭されました。

仕事のやり甲斐や印象に残っている出来事などについて教えてください。

Aさん 分析業務は華々しいイメージがあるかもしれませんが、実際には毎日の作業自体は地味で、成果が上がりにくいものです。ですが、地道な作業の積み重ねにより、**まだニュースで流れていないような新しい発見をした時などは、とても達成感があります。**

Cさん 衛星センターは国内で最先端の衛星の開発を行っているので、それに直接携わることができることはこの上ない喜びです。また、種子島宇宙センターからの**衛星の打上げの際には、現地で「特等席」から見る**ことができ、とても感動しました。

若手職員プロフィール



Aさん
平成26年採用（行政区分）
分析官を2年間経験後、分析部内の調整業務に従事。録り溜めたドラマを見るのが至福の時間。



Bさん
平成27年採用（技術区分）
撮像計画業務を2年間経験後、分析部にて衛星技術の調査業務に従事。バイクに乗るのが好き。



Cさん
平成28年採用（技術区分）
運用者の声を地上システム開発に反映する業務に従事。アイドルのライブ参戦で元気百倍。



Dさん
平成30年採用（技術区分）
地上システムの維持管理業務に従事。ランニング後の銭湯にハマっている今日この頃。

Bさん 私は最新の衛星技術の動向調査として、色々な分野の学会の発表を聞きに行くことがありますが、中でもレーダ技術に関する国際学会に参加したことが印象に残っています。国際学会は世界中からその分野の第一人者が集まって発表や議論が行われるので、**世界トップレベルの技術を垣間見ることができてとても刺激的**でした。

将来はどんな仕事をしたいと思っていますか？

Bさん **もっと世界に目を向けた仕事をしたいと思っています。**情報収集衛星は日本のトップレベルの技術が詰め込まれた人工衛星ですが、国際学会の発表などを聞いてみると、将来の情報収集衛星に取り入れたい技術はまだまだあると感じます。世界最先端の技術を情報収集衛星にたくさん取り入れることができるよう、技術的な知識や英語力を伸ばしていきたいと思っています。

Dさん 私は災害対応の業務や、それに関わる技術面でのシステム整備に興味があります。現在公開している加工処理画像は、一部の研究機関や市町村で使っていただいていると思いますが、より多くの方に活用していただけるよう、技術的なハードルを乗り越えて使いやすい形で提供していこうと思っています。情報収集衛星の秘密を守りつつ、**必要な情報を必要ところに迅速に提供できるようなシステム作りができればいいな**と思っています。

最後にパンフレットを読んでいる皆さんへメッセージをお願いします。

Bさん 衛星センターはまだまだ小さい組織なので、若い人でも様々な業務に携わることができ、貴重な経験ができる機会が豊富です。宇宙や人工衛星のことは勉強したことがないのですが…という方でも全く問題ありません。**好奇心旺盛な方やチャレンジ精神をお持ちの方に来てもらえる**と嬉しいです。

Aさん 最近、女性の志望者が増えていることが嬉しいです。上司や周りの職員はプライベートにも理解があり、女性にとって働きやすく、仕事が続けやすい職場です。多くの時間を共有し、**皆で支え合って成り立っている衛星センターは、私にとって「第2の家族」のような存在**です。皆さんも安心して訪ねてきてください！

海外技術動向調査

(平成28年採用・男性)

内閣衛星情報センターの大きな魅力の一つとして、採用年次の若い頃から海外出張を経験できることが挙げられます。安全保障・危機管理に関わる情報収集衛星には最先端技術が不可欠であり、高度な技術力を有する諸外国のシンポジウムに積極的に参加し、企業や政府関係者からヒアリングを行っています。5年後、10年後の衛星開発へフィードバックするために、多くの若手職員が海外出張の機会を得ています。

私は、採用後3年間で3回の海外出張を経験しました。海外の運用システムの省力化・効率化の現状等を調査し、出張後は報告会を

開催、国内企業との意見交換も行いました。10機体制を目指すセンターにとっての重要課題に関する貴重な情報を得ることができ、大きなやりがいがありました。

現在は撮像計画に関わる部署で、情報収集衛星運用の最前線に身を置きつつ、海外出張を通じて得た知見・知識を、いかに将来の衛星運用・システム開発に反映させ、運用負荷の省力化・効率化の実現に繋げていくかを開発部署とともに検討する仕事に携わっています。センターのミッション遂行の今と未来に大いに貢献することの責任を感じ、大変充実した日々を送っています。

開発業務と契約

(平成23年採用・男性)

皆さんは、「地上システムの開発」の業務について、どのようなイメージを持っていますか？

もしかすると堅苦しいイメージを想像する方もいるかもしれませんが、今回は少し視点を変えて「開発業務に関する契約」について紹介します。

「契約」と一言と言っても、予算要求に関すること、仕様の検討等、多くのやるべきことがあります。様々な知識が求められ、経費削減とのバランスもとらないといけないなど、関係各所との調整が多々必要となります。

周りの人からの助けをもらいながら、いく

つもの困難を乗り越え、なんとか契約がまとまった時には、この仕事に携わってよかったと安堵感や達成感を得ることができます。

今回、「地上システムの開発」の業務について、いわゆる“技術系”のイメージとは違うであろう業務を紹介しました。このように、行政事務に近い業務についても身に付けていき、将来、開発の専門家として活躍していきたいと思います。

皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています。

先輩からのメッセージ

人の為したコト

(分析業務のエキスパート・男性)

内閣衛星情報センターは、情報収集衛星で世界各地を日々撮影しています。分析部では、その衛星画像から様々な状態を読み取り(判読)、それまでの情勢や背景、技術的な知見等からその状態を評価(分析)していきます。

分析部が日々行っている「判読」と「分析」はどちらも難しい作業です。が、ここで、この仕事を楽しむためのコツの一つ。それは、単に「衛星画像」の判読・分析と考えるのではなく、「人の為したコト」の判読・分析と考えること。例えば、「何故その車はそこにあるのか？」ではなく「何故その車をそこに停めたのか？」と考える。このように「人

を主人公にして考えると次々に疑問が湧いてきます。どうやって来たのか？何をしに来たのか？これから何を行うのか・・・できれば運転手さんに質問したいところです。このような視点の変化で、この仕事が更に興味深く、また面白くなります。

そして、その仕事の結果は、日本の安全保障・危機管理上の政策決定を支える「情報」となります。その責任の重さと共に、仕事に対する自負や充足感も一級品です。このように充実した仕事場が内閣衛星情報センターの分析部です。もし興味があれば是非一緒に仕事をしましょう。

レーダ5号機の打上げ

(開発業務のエキスパート・男性)

平成29年3月、種子島宇宙センターから情報収集衛星レーダ5号機が打ち上がる様を感慨深く見守ることができました。これからの国の重要な任務をこなす責任と期待を背負い、HII-Aロケットに搭載された衛星は、耳をつんざく衝撃波音とともに、晴天に瞬く間に吸い込まれ遥かとなりました。

内閣衛星情報センターに採用され18年目を迎え、情報収集衛星の創成期の衛星画像の評価・解析に携わり、その後更なる性能向上を目指した衛星の開発業務に就いた私にとって、レーダ5号機はまさに同じ時代を歩む同僚のような存在です。

天候の影響を受けず、また昼夜を問わず、関心対象の映像を送り続けるレーダ衛星。光学衛星の画像ほど、決して綺麗ではなく、一般には敬遠されがちなクセのある絵を提供する一方で、時として光学には捉えられない決定的な事実を浮かび上がらせません。偏屈だが極めて有能なパートナー。そんなレーダ衛星の特性を十二分に把握し、能力を極限まで発揮させてあげることが私の現在の仕事であり生きがいです。

育児中の女性職員から

私は、平成29年の春に長女を出産し、約半年の育児休業取得を経て職場復帰しました。産休前と担当業務は少し変わりましたが、同じ部署に復帰しました。

私が所属する分析部での主な業務は、衛星画像の分析と報告書の作成です。画像分析は、画像から得られる意味ある情報を漏れなくフォローし、一つ一つ評価していく、地味で骨が折れる作業ですが、緻密な積み重ねにより新たな発見に至ることが大きな魅力でもあります。育児により時間的制約がありますが、何とか効率を上げようと日々模索中です。

現在は、同僚の理解と支援に助けられ、勤務時間を短縮しています。分析部の業務は、日々の大まかなスケジュールが決まっているので、計画的に仕事をすることができ、とても助かっています。我が家は夫婦双方の実家が遠いこともあり、支援を得るのは難しいため、夫婦の一方でも安定したスケジュールで仕事ができるのは非常にありがたいです。

当センターは、政府の政策決定を支えるという非常に重要な任務を担う一方で、華々しいことはほとんどありません。ひたすら地味で、常に高い緊張感が求められる職場です。しかし、国家公務員に興味がある皆さんにとって、当センターの業務は他にはないやりがい溢れるものではないでしょうか。

加えて、当センターは「やりがいのある仕事」と家庭とが両立しやすい環境でもあります。どちらも諦めず、精一杯取り組みたい！という皆さん、当センターと一緒に働きませんか。



分析部職員

平成28年採用 行政区分

私は、採用1年目は総務課で外部との調整業務を経験し、昨年度から分析官として衛星画像を使った分析業務に従事しております。

衛星センターは情報収集衛星の画像という“国家機密”を扱う日本で数少ない省庁であり、普通の生活では絶対に関わりのない世界に身を置いていることに充実感を感じます。

8:30 出勤

ニュース等で最新の海外情勢をチェックし、今日の注目点を考えます。

9:00 判読・分析

まず、自身が担当する地域について、情報収集衛星によって撮像された画像を確認します。広範囲の衛星画像から小さな変化を見つける判読・分析はとても根気の要る作業ですが、重要な情報の発見につながることも多く、公開情報等とも組み合わせながら進めていきます。

何か特異な事象があれば上司に報告し、幹部への報告の要否を検討します。

12:00 昼休み

13:00 資料作成

幹部へ報告する際は、報告予定の内容に関して資料を作成します。情報は水物であり鮮度が大切なことが多く、その日の事象は当日か遅くとも翌日までは報告を行うのが基本です。

新米分析官の私は、やり直しを防ぐために一気に資料を作成するのではなく、内容について上司に随時相談し、指導してもらいながら着実に作成します。

資料が完成したら説明の流れをイメージしたり、必要と思われる知識を収集します。

報告はプレゼン方式をとることが多く、プレゼンターは報告書の作成者が担当するので、若手でも幹部や大勢の人の前で自身の分析内容について報告する機会が多々あります。

17:15 退勤

職員の日

技術部職員

平成13年採用 技術系

私は、調査研究担当として数多くの企業に様々な技術についてヒアリングを行います。残念ながら適用できない技術も多いのが実情です。しかし、そのような場合でもこちらのニーズや関心を伝えておくことで将来のチャンスにつなげていきます。

衛星の研究開発は順調に進まないことも多いですが、最新技術を日々勉強しながら、奮闘しています。

9:30 出勤

1日の予定とメールの内容を確認。午前と午後の会議に合わせ、前回の打合せ結果の確認と今日の議題について確認しておくべき事項をリストアップ。

10:00 関係者との打合せ

研究開発プロジェクトの進捗に関する打合せ。順調に進捗しているもの、課題等が発生したものなど様々。課題が発生したものについては、その対処方法や必要な期間、今後の全体スケジュールについて確認・議論していく。

12:00 昼休み

13:00 企業との打合せ

報道やインターネット、営業担当者から収集した最新技術について、保有する企業から紹介を受ける。最新技術のメリット・デメリット、適用範囲、技術成熟度、研究開発に必要な期間やコストを確認する。結果、自分たちの業務・システムにとって有用な場合は、実用化へ向けプランを具体的に議論していく。

15:00 技術課題の検討

打合せで確認したプロジェクトの課題を上司に報告し、対応方針を検討。また、企業との面会で得た最新の技術情報については、開発担当と運用担当と共有し、適用可能なものか確認。

17:00 技術情報収集

インターネット等の情報ソースから、運用やシステムの課題を解決できる技術を調査。場合によっては面会のアポ入れ。

18:15 退勤

採用に関するQ&A



内閣衛星情報センター

どのような人物を求めていますか。

内閣衛星情報センターでは、「情報収集衛星の開発・運用」及び「衛星画像情報の判読・分析」をはじめとした情報収集衛星に関連した様々な業務を行っております。その業務内容は広範かつ多岐にわたっており、採用区分に関係なく、多種多様な業務に携わっていただくため、**求める人物像というものを形式的に決めておりません。**

採用担当者の立場から、求める人物像を取上げて挙げるとすれば、内閣官房には様々な省庁や民間企業・関係機関から出向者が来ていることから、バックグラウンドの異なる様々な職員とともに、それぞれの知識や技術を持ち寄り、大きな目標に向かって熱意を持って働きたい人材に志望していただきたいと思っております。



内閣衛星情報センター

これまでの採用実績を教えてください。

内閣衛星情報センターでは、国家公務員採用一般職試験（大卒程度試験）の最終合格者を対象に、下表のとおり採用を行っております（括弧内は女性の人数）。

今年度は行政区分、技術系区分合わせて8人前後の採用を予定しております。

試験年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度 (予定)
行政区分	1人 (1人)	1人 (0人)	2人 (1人)	3人 (2人)	3人 (2人)	8人前後
技術系区分	2人 (1人)	3人 (0人)	2人 (0人)	4人 (1人)	3人 (3人)	



内閣衛星情報センター

大学での専攻等は採用に関係がありますか。

大学でどのような分野を専攻していたかは、採用に全く関係ありません。

また、理系学生からよく聞かれる質問ですが、大学院に進学している方が有利ということもありません。

あくまでも人物本位の選考を行っておりますので、学部・学科や専攻に関係なく、当センターの業務に興味がある方に来ていただくと幸いです。



内閣衛星情報センター

転勤や他省庁への出向の有無について教えてください。

内閣衛星情報センターには地方組織として副センター、北・南受信管制局がありますが、職員の90%以上は東京の中央センターで働いており、東京勤務の期間が多くなります。

また、現在のところ他省庁への出向者はいませんが、衛星開発関連企業との間で人事交流を実施しています。

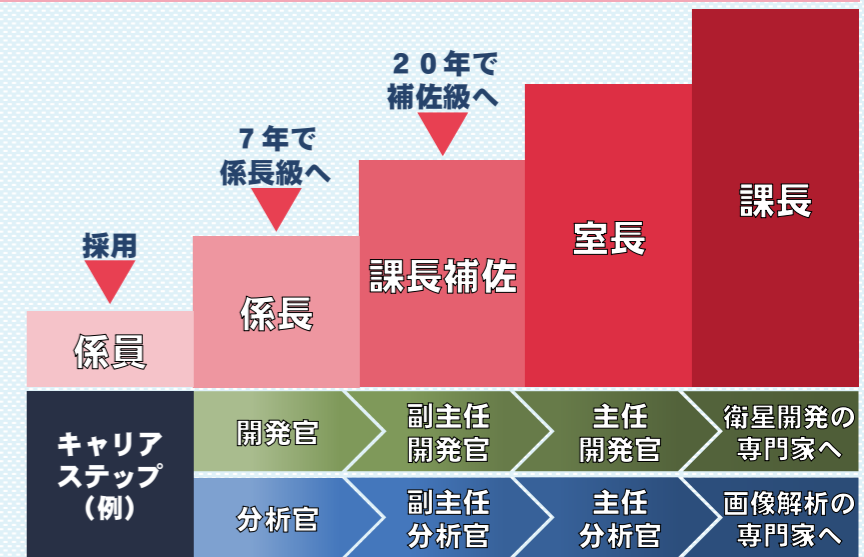
なお、当センターでは将来の中核となる知識と経験を備えた人材を育成していくため、多種多様な職場や業務を経験していただくことを重視しており、将来的には地方組織への転勤や他省庁への出向、在外公館での勤務の可能性もあります。その場合にも、**原則として本人の希望に可能な限り配慮し、適材適所の観点から人員配置を行っていく方針です。**

キャリアステップ・待遇等

キャリアステップ

採用後は管理部、分析部、技術部のいずれかに配属され、基礎的な行政事務手法を学ぶとともに、当センター業務の全体像を把握していきます。

その後、世界情勢及び技術動向への情報感覚を高めつつ、各職員の希望及び適性に配慮しながら、主要各部門に配属され、それぞれの専門分野を極めていきます。



待遇（平成31年4月現在）

一般職試験（大卒程度試験）合格者の場合、行政職俸給表(一)1級25号俸が適用され、224,040円が支給されます（地域手当、本府省業務調整手当含む）。

なお、大学院を修了した方や職歴等がある方の場合は、この金額にさらに加算された金額が支給されます。

このほか、扶養手当や住居手当、超過勤務手当などの諸手当が支給されます。

賞与（ボーナス）は6月と12月に、合計して年間4.45月分支給されます。

語学力の必要性

語学力を採用の要件とはしていません。

しかしながら、採用後に携わる業務には、外国政府や企業との折衝もあり、先進的な技術や手法の調査・導入といった分野でも、語学力が仕事の幅や成果を広げることがあるのも事実です。

当センターでも外国語の習得を推奨しており、当センター内でも語学研修を行っておりますので、ぜひ積極的に挑戦してください。

採用担当者より

最後までお読みいただき、ありがとうございます。皆さんの中にはこのパンフレットを手取るまで、当センターの業務内容や存在自体をご存知なかったという方も多いことと思います。興味を持っていただけましたでしょうか。

採用担当として、全国各地の業務説明会に参加していますが、各会場でお会いした皆さんにお伝えしていることがあります。パンフレットだけでなく、業務説明会や座談会等に積極的に参加し、そこで働く職員と話し、職場の雰囲気を感じてほしいということです。

職員の生の声を聞くことで、パンフレットでは分からないところを知ることができたり、それまで抱いていたイメージが大きく変わることがあります。実際に私自身もそういう経験をしたものです。

国家公務員の仕事内容は各省庁によって多種多様です。是非、皆さんも各省庁の説明会に積極的に足を運び、自分の目で志望先を見極めていただければと思います。

また、その際にはぜひ、当センターも志望先の一つとしてご検討していただければ幸いです。